

令和 3 年 5 月 9 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02477

研究課題名(和文)「忠臣蔵」初期実録の基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental studies of "tyuusingura"syokijitsuroku

研究代表者

山本 卓 (YAMAMOTO, Takashi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：60230562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：「実録」とはいわゆる「近世実録」あるいは「実録体小説」と称される作品群である。そのなかでも忠臣蔵(赤穂義士伝)の初期実録について、従来最大の所収書(『赤穂義人纂書』)に漏れた重要書を見つけ出すために、諸本を調査して資料を比較し、忠臣蔵像の原形を探ることを目標に、作品を選び出し、これを決定して、その諸本を比較研究して、良好な校訂本文を作成する。その上でそれら本文の解題的基礎研究を進め、校訂本文とともに公刊して、専門家や社会に還元して、忠臣蔵初期実録像を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

忠臣蔵初期実録については、これまでは明治期の『赤穂義人纂書』によっていたのであったが、本研究によりそれらを見直し、更に2作品を重要作と認定し、それに『介石記』を加え、綿密な諸本研究を施し、これらを比較研究をして良質な校訂本文を決定し、これに解題的基礎研究を進め、あわせて公刊して、斯界や社会に還元したことは、学術的意味や社会的意義が大きいものと認定される。これによって、忠臣蔵像の創出・形成の解明が確実に進歩したのである。

研究成果の概要(英文)："Jitsuroku" is a meaning of "kinseijitsuroku" or "jiturekutaisyousetu". About tyushingura the beginnin jitsuroku, tmost largest book "akogijinsansyo2 do not record, but an important works, I find. I research version of a book. I make tertual collation. I publish it, with fundamental studies.

研究分野：日本近世文学

キーワード：忠臣蔵 赤穂義士伝 実録 日本近世史

1. 研究開始当初の背景

「実録」とは、「近世実録」あるいは「実録体小説」の謂である。近世文学研究は多彩に展開されているのに対し、「実録」の研究ははなはだ遅れていることは後述する。

現在まで知られている忠臣蔵(赤穂義士伝)像を創出・形成してきたのは、主に写本で流布した近世実録(実録)というジャンルの作品群なのである。その近世実録の研究はかなり遅れていると言える。忠臣蔵(赤穂義士伝)の史実についての研究あるいは浄瑠璃・歌舞伎の研究はかなりなされているのに対し、その実録についての研究は一向に進んでいない状況で、その初期実録については明治期の『赤穂義人纂書』(国書刊行会)以来、ほとんど何もなされていなかった。著名な忠臣蔵であるだけに何とも残念のいたりである。そのような状況のなか、山本卓「赤穂義士伝もの実録の生長 『内侍所』から『赤穂精義内侍所』へを中心に」(岩波書店『文学 隔月刊』第16巻4号 2015年7月)などの一連の研究が細々と進められつつあったが、このたび科研費の補助をうけることとなり、新たな進捗が期待されることである。

2. 研究の目的

現在も知られている忠臣蔵像を創出・形成してきたのは実録というジャンルの作品群であることは述べたが、写本で広範に流布したが故に研究の困難が伴い、十分な研究はされてこなかった。写本であるが故に本文が流動的で固定されず、また伝本の数が増え、それらを調査することは甚だ困難として、研究は躊躇されてきた。

本研究では、これまでの忠臣蔵研究の欠を補い、忠臣蔵像の原形をさぐるべく、写本で伝わった忠臣蔵実録展開の「初期」に着目し、その雑多な諸本を取り上げ調査して、その基礎研究をすすめ、『赤穂義人纂書』に漏れた重要作品を選定し、その諸本の本文を比較検討して、良質な校訂本文を作成し、更にその解題的基礎研究を加えて、それらを公刊して斯界や社会に提供し、大きく発展する忠臣蔵像について、その原形を明らかにすることが研究の目的である。

すなわち、本研究により、今日まで多様に展開する忠臣蔵像のその原初的形態を明らかにできると考えている。

3. 研究の方法

実録の研究というと、まずその諸本の基礎的研究が欠かせないのである。実録は雑多なものとして各所蔵機関でも重要視していないのが実情である。諸本調査は困難を極めることが容易に想像される。

そこで、本研究では、忠臣蔵実録の初期実録に着目し、その諸本を、各地の所蔵機関を訪書し、その本文を撮影し、あるいは複写依頼して、必要な本文の入手をする。入手した本文の写真・複写などにより伝本の重要性を、忠臣蔵像の形成という視点から分別する。それらの作業の中で、『介石記』『新撰大石記』の二本を選び出した。更に実録の生長のうえで、重要な作品はないかと種々検討の末、のちの作品ではあるがほぼ唯一の忠臣蔵実録の刊本として注目すべき作品である片島深淵子著『赤城義臣伝』(享保4年序・刊)との密接な関係(『赤城義臣伝』の凡例の中で、『通俗演義赤城盟伝』を「本拠」とすると明かしている)から、『通俗演義赤城盟伝』を選び出し、これら3作品の良質な校訂本文を作成して、その解題的基礎研究をまとめ、『忠臣蔵初期実録集』(清文堂出版)として公刊し、専門家・関係者そして社会に公開した。

4. 研究成果

現在まで知られている忠臣蔵であるが、その研究は史実の解明、および浄瑠璃・歌舞伎の研究に偏っていた。研究が進んでいない忠臣蔵実録であるが、その初期については、本研究により、『赤穂義人纂書』に収録はされていないが、その展開・成長上重要な作品が選定され、その良質な校訂本文、および解題的基礎研究が公開されたこと(山本卓編『忠臣蔵初期実録集』、清文堂出版、2020年9月刊)は大きな成果と言えよう。その成果により、今日まで続き大きく展開する忠臣蔵(赤穂義士伝)像の原形が明らかになった。その成果を専門家・関係者の意見を徴するため、山本卓編『忠臣蔵初期実録集』を専門家・関係者に謹呈し、その反応によって研究が進み、その一部は山本卓「『赤城義臣伝』と『通俗演義赤城盟伝』」(関西大学国文学会『国文学』

105号) となってまとめられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本卓	4. 巻 105
2. 論文標題 『赤城義臣伝』と『通俗演義赤城盟伝』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学	6. 最初と最後の頁 99～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本卓	4. 巻 第103号
2. 論文標題 『忠臣規矩順従録』小攷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学	6. 最初と最後の頁 265～274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山本卓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 420頁
3. 書名 忠臣実録集実録集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------